

年頭の辞

九州運輸局観光部長 西畑 知明



令和4年の新春を迎え、謹んでご挨拶を申し上げます。

まず、昨年8月の大雨等により被災された皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。九州運輸局観光部としても、相談窓口の設置や風評被害対策を含め、被災地域が再び賑わいを取り戻すことができるよう、地域の皆様とともに観光振興に取り組んでまいります。

観光産業は、ホテルや旅館での宿泊のほか、交通、飲食など、裾野が広く、地域経済にとって極めて重要な役割を果たしています。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の長期化により、九州においても、国内の観光需要は大幅に減少し、インバウンドも姿を消すなど、観光産業は深刻な影響を受けています。このため、国土交通省・観光庁としましては、観光産業の雇用の維持と事業の継続に関する支援とともに、感染拡大防止と経済の両立の観点から、観光需要の喚起を図ってまいります。

地域観光事業支援として、現在、県民による県内旅行への割引に加え、隣県からの旅行者による県内旅行も支援対象に広げていますが、「ワクチン・検査パッケージ」を活用して旅行の安全・安心を確保しつつ、感染状況等を見極めながら、九州域内での旅行、さらには全国規模での「新たなGo To トラベル事業」へと、支援対象を段階的に拡大することとしています。

コロナ禍は、右肩上がりのインバウンドによって見過ごされがちであった「持続可能な観光のあり方」を見直す機会でもあると思います。インバウンドの数は増えたけれども、それによって地域は本当に潤っていたのか。費用をかけてイベントを行ったけれども、一過性ではなく継続的な効果が認められるのか。これまで「持続可能性」というと、特に環境面での意味合いで使われる場面が多かったという印象ですが、「経営面での持続可能性」についても地域でしっかりと考えていく必要があると考えています。これからの観光は、観光客の「量」というよりは「質」を高める、つまり地域でしっかりと消費してもらい、お金を落としてもらい仕掛けをいかに作っていかせるかにかかっているのではないのでしょうか。

ウィズコロナ・アフターコロナの時代における観光ニーズの変化を的確に捉え、地域における観光資源の再発見や磨き上げ等の取組に対する支援などを通じて、九州観

光が発展的な形で回復することができるように、九州運輸局観光部一同、一層の努力を致します。本年も変わらぬご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。